

## 研医会図書館所蔵の森立之稿本『千金方疏証』

安部 郁子

財団法人 研医会図書館

研医会図書館には森立之関連の書籍として『神農本草経(上中下)』『本草経薬和名攷(上中下)』『靈枢骨度篇尺度攷』『温疫論割記(上下)』『傷寒提要』『桂川医話』(または『遊相医話])『引経報使論』『千金方疏証』などがある。このうち、『千金方疏証』の帙には「未刊本“千金方疏証”森立之自筆稿本 佐久間洋行所蔵 昭和二十四年己丑孟夏 書帙改装」と書かれている。すでにこの本の画像データはウェブアルバムで公開しているが、今回テキストのデータ化を試みた。未だ全部の文字の解読はできていないが、その途中報告をする。

**【書誌について】** 大きさ24.0×16.5cm, 四周単辺, 有界(刷), 10または11行, 毎行字数不定, 68葉, 朱書校訂, 巻頭に「森氏」蔵書印2, 「佐久間醫院」蔵書印1, 27葉めに「問津館」蔵書印1がある。原稿箋は, 版心黒魚尾のもの(毎半葉10行), 版心に結び目のような印のついたもの(毎半葉11行), 版心に何も無いもの(毎半葉11行)の3種類ある。書き手の文字も丁寧な楷書, 速筆で書かれた崩し字や朱筆・青筆, また、『千金方』本文を太い筆で書き, 細筆で書き入れをする部分など, 数種類がみえる。

**【編綴】** 書名からすれば『千金方』について解説する大部の書籍となるべきものだったと考えられるが, 実際にこの本に含まれているのは『千金方』93巻のうち, 2巻め「婦人方 上」の途中までの内容ではない。

編綴の概略と各部分のページ・行数を示す。

## ① 序と巻一に出てくる書名, 人名, 用語について書かれた部分

序(5行), 大醫習業第一(9頁3行), 論大醫精誠第二(3頁), 論治病略例第三(6頁8行), 論診候第四(3頁8行), 論處方第五(1頁), 論用藥第六(1頁), 論合和第七(13頁6行), 論服餌第八(5頁2行), 論藥藏第九(5頁4行)

## ② 「問津館」蔵書印に続く部分 数字の記号がある部分(9頁4行) 生薬名の項目

## ③ 篆書の大文字の頁に続く部分(5頁) 漢籍の序文などから孫思邈についての記述

## ④ 再び最初の部分と同じ内容の部分(4頁) 書名, 用語, 人名の項目

## ⑤ 産婦人科についての記述部分(44頁3行) 巻二 婦人方の文や生薬名の項目

## ⑥ 「讀甲乙経」に続く部分(5頁)(注: 空白の頁は数えていない)

**【内容】** 『千金方』の本文から言葉を抜き出し, それについて見るべき文献の名称を書いたり, 時には自らの考えを述べる。「立之按」「想」「案」と記された箇所は50あった。また多紀苗庭の意見を2か所記している。「今本」と「真本」との違いや方剂, 生薬についての言及が多い。婦人方の部分には真人, 仲景といった人物の名とともに張路玉, 中条帶刀, 蘭軒の名をあげ, その説を記している。

**【考察】** 本を作る最初のメモ書きのようである。晩年に書かれた立之自撰『枳園森立之壽藏碑』文中の「(略)行業中, 正名の学(名物学)に大裨益あるは皆一々筆録し, 以て後攷に備え, 既に一百余巻に至る。」という姿勢がこの稿本にも表れているようにみえる。項目だけ楷書で書かれ, そのうちのいくつかに多少崩した字で書き入れがあり, まだ手稿として作業の途中であったことがわかる。ただ, ③の部分の大きい文字で篆書を書いたのが森立之だとすれば, 内容を固めるより先に完成した本の姿を想像するような人物であったのかもしれないと感じた。今後、『引経報使論』(森立之・渋江道純・多紀安常・喜多村安貞 他: 筆, 嘉永戊申 多紀元堅: 読批)『醫事四十四問』(林用之: 筆, 文久元年)と合わせて, 森立之の著作への取り組みや江戸医学館, 幕末考証学派について考える材料としたい。